

鳥獣保護管理調査コーディネーター

海老原 寛

株式会社野生動物保護管理事務所

対象鳥獣
ニホンザル

活動地域

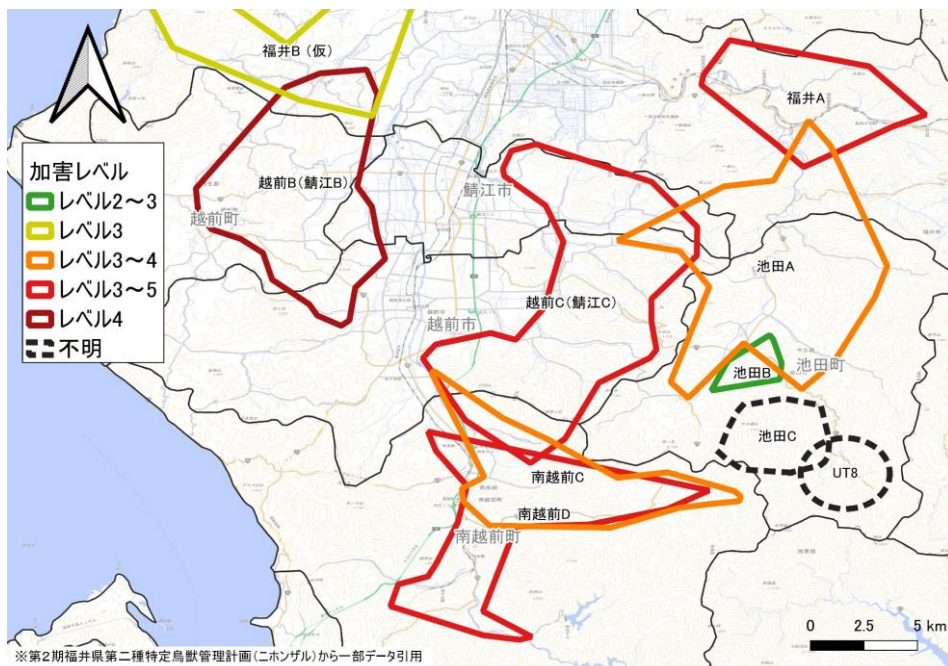
福井県
(丹南地域)

● 事業内容

モニタリング調査及び研修会の実施

■ 事業の背景

ワイルドライフマネジメントにおいて、モニタリングの重要性についてはだんだんと理解が広がってきている一方、隣接地域同士の調査結果の情報共有の重要性については、なかなか進んでいないのが現状である。特に群れ管理を推進すべきニホンザルについては、市町村域をまたぐ群れが存在するため、管理方針を統一していくことが被害の解消に直結していくと考えられる。福井県丹南地域では、「丹南地域鳥獣害対策連絡会・丹南地域有害鳥獣対策協議会」の中で、随時情報共有を実施する体制が整ってきているため、先進的な地域である。



※第2期福井県第二種特定鳥獣管理計画(ニホンザル)から一部データ引用

図1 丹南地域のニホンザル群れ分布

実施した内容及び成果

福井県丹南地域は、越前市、鯖江市、越前町、池田町、南越前町の5市町から構成される。私が所属する株式会社野生動物保護管理事務所は、平成28年ごろから本地域のニホンザルのモニタリング及び被害対策の依頼を受け、様々な事業に関わってきた。

福井県では、環境省の「特定鳥獣保護・管理計画作成のためのガイドライン(ニホンザル編・平成27年度)」で示されているモニタリングステップ(※)におけるステップ1～3(群れのおおよその数、位置、頭数、加害レベルの把握)について、平成27年の福井県第二種特定鳥獣管理計画(ニホンザル)を策定した時点で達成済みであった。この結果を踏まえ、丹南地域の各市町はモニタリングステップの4～5(群れの行動域、各群れの頭数・構成の把握)について、それぞれ進めていくよう提案しつつ、実務者としても様々な事業を受託した。

それぞれの市町の尽力の結果、丹南地域の加害群の分布、行動圏、頭数が明らかになった。これらの調査結果を参考としつつ、計画的な頭数管理や被害防除対策が実施されていっただけでなく、継続的な電波発信器の装着、定期的な頭数調査など、PDCAサイクルを循環させるためのモニタリングも継続的に実施された。



図2 GPS首輪の装着

※特定鳥獣保護管理計画作成のためのガイドライン(ニホンザル編) || 野生鳥獣の保護及び管理[環境省] (env.go.jp)において、ニホンザルの生息状況を把握するためのモニタリングステップ1～5を示している。

- ・ステップ1～3(群れのおおよその数、位置、頭数、加害レベルの把握):主に都府県が実施
- ・ステップ4～5(群れの行動域、各群れの頭数・構成の把握):主に市町村が実施

■ 実施した内容及び成果

一方で、丹南地域では市町をまたいで分布する群れが複数存在していたが、それぞれの市町がそれぞれで調査・対策を実施している状態であったため、非効率な管理となってしまっている側面もあった。そこで関係5市町と福井県で構成される「丹南地域有害鳥獣対策協議会」の中で、市町間でのサルに関する知識の充実を図りつつ、モニタリングや対策の現状について共有する場を設けることとなった。5市町のサル事業に関わってきた立場として、私が研修会の講師を担うこととなった。研修会の内容は、サルの生態や必要なモニタリング、被害対策の考え方など基本的な内容から始まり、これまで各市町が実施してきたモニタリング内容を取りまとめ、現状の整理と今後の管理方針の提案もおこなった。この動きは、現在でも継続している。



図3 モニタリング及び対策実施状況の共有

地域で生じている個々の問題に対して向き合い、解決に導くために必要な調査を実施することは、鳥獣保護管理調査コーディネーターの役割であろう。一方で、近隣地域の調査結果を取りまとめ、広域連携を進めていくことも重要な役割であると考えられる。